

奈弓連だより

通巻 230号

令和3年4月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中 正
編集担当 松澤和実 山本悦子
連絡先：henshu@narakyudo.jp

令和3年度の始まりにあたり

奈良県弓道連盟 会長 西中正

4月11日(日)、ロート奈良弓道場(旧ならでん弓道場)において令和3年度評議員会を開催しました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大のため、書面だけで行われましたが、今回は対策をとりながらも評議員の皆様と顔を合わせることができました。初めに令和2年度の事業報告と決算報告があり、その後、令和3年度の事業計画、予算案の説明がありました。総務部や財務部の引継ぎ時に障害となっていた不備を補完する規約の改正なども含め、すべて可決・承認され、令和3年度の行事を無事にスタートできることとなりました。

新型コロナウイルスのまん延が収まらず、行動が制限され窮屈な日常が続いております。行動のガイドラインも模索しながら、連盟も活動をしています。奈良県弓道連盟会員の皆様においても、事務局からの情報を把握して行動をしていただき、健康と安全を最優先に活動を続けられることを望みます。

また、令和2年度地連審査では、練習に規制のある中でも854名の挑戦者がありました。中でも学生の努力が如実であると感じました。不安をぬぐい切れない中、学生生活の総括として審査に立ち向かう。努力の結晶を垣間見た感じがしました。弓の体配、射技の向上だけでなく、中学、高校、大学、一般を問わず、豊かな人生を構築できるよう、一日も早く正常に活動できる環境になる事を願ってやみません。奈良県弓道連盟一丸となって努力してまいりましょう。

第296回地連定期審査

初段13名 弐段7名 参段5名 四段4名
五段5名が合格

3月21日(日) 橿原公苑弓道場において、審査会が開催されました。今回は五段の審査が地連審査で行われ、和歌山県から田中康雄先生と京都府から千田寿男先生が審査員として参加されました。あいにくの雨の

昇段おめでとうございます

橿原公苑弓道場で3月21日に開催されました第296回地連定期審査会において次の方々が昇段されました。

四段

鶴山 泰男さん(奈良)
米田 朋矢さん(県医大)
上山 友暉さん(県医大)
山城 庸平さん(五條)

五段

前川 なつきさん(橿原)
松本 雄介さん(奈良)
腰越 和雄さん(錬弓会)
秋山 和人さん(生駒)
坂 美智代さん(生駒)

おめでとうございます。(事務局)

中、控えの場所や移動等で不便な部分もありましたが、今年度最後の審査会を無事に終えることが出来ました。

3月の審査会では、ビデオ審査も含め、学科審査の解答不備が目につきました。レポート提出にもかかわらず、内容が乏しく、分量が少ない。解答内容の不足で不合格者も出ました。問題の間違いで不合格になる者もいました。ネットを参考にするのは構いませんが、丸写しするのではなく、内容を精査し、問題に適しているか考慮し解答して頂きたいと思います。学科審査の解答用紙はホームページに記載の物(A4サイズ)を使用し、自筆で極力1枚に収めるようにして下さい。また、ビデオ審査では学校により射の運行や体配に大きく差がありました。弓返りしない時の弦の返し方が(2P後半へ続く)

3月の全日本弓道連盟の審議会において須田三郎先生 が八段に認許されました

須田先生より



弓界の優れた諸先生は競技力と指導力の両輪をお持ちの方々ですが、私は指導にばかり長く携わってきた、いわば片肺飛行の弓人と認識しています。

大学入学時、たまたま目にした某先輩の、真剣に弓に向き合う姿勢

に心を動かされ、以来この道に長く係わることになりました。入門期の先輩との繋がりから、的中よりも射技優先の姿勢が身に付き、その後の部活動や社会体育での指導の基本的スタイルとなりました。複数の学校での部活動では、勝敗よりも卒業後何年たっても弓を手にできる基礎基本の習得を一番の目標に掲げてきました。卒業生が多数、全国各地で活動を続けているようですが、先日は東京の仲間から「父親が奈良で須田という人に習ったという生徒がいる」との話聞き、一人相好を崩していたところです。この度の八段認許も現役時代の生徒・卒業生、県連会員や地元協会の皆さんの真面目な取り組み、活動が本になったもので、心から感謝しております。たくさ

んの皆さんからお祝いの言葉やメールをいただきました。幸い今のところは健康体を維持していますので、これを機に身体の続く限り皆さんのお役に立てるように頑張ろうと気持ちを新たにしています。これからもどうぞよろしくお願ひします。

(大和郡山市弓道協会会長 須田三郎)

須田先生の紹介

長年にわたり弓道界に尽力

須田先生は高校教師として、ご自身の弓道修練とともに多くの高校で弓道部を創設し、高校弓道の普及や組織づくりに尽力してこられました。全国高体連弓道専門部長にも就任し、全国の高校生代表とともに天津体育学院への訪問、国際交流もされています。

平成6年には全弓連理事に就任し、同12年からは雑誌弓道の編集委員も歴任されています。

また昭和59年に開催された「わかくさ国体」では開催準備から携わられ、本大会では理事長として成功に導かれたことも、深く記憶に残っています。

今回、須田先生が尽力されてきた数々の業績が評価され、先生のご昇段をお知らせできますことは、県連としてもたいへん大きな喜びと感じています。

(理事長 阪中計夫)

(1P 地連審査よりつづき)

間違っていたりして、審査員から指導、練習が必要と指摘がありました。

もう一点、審査申込書は正しく記入して下さい。平成は31年4月までですが、令和元年4月や平成31年8月の記入がありました。また、男女の○や休会の期間の記入漏れもありました。

3月の審査結果は次の通りです。

・第4回ビデオ審査 3/14

級位 受審者 130名 (1級 62名、
2級 58名 {内現級 2名}、3級 10名)
初段 受審者 24名 合格 20名
弐段 受審者 4名 合格 4名

・第5回ビデオ審査 3/14

級位 受審者 80名 (1級 54名、2級 26名)
初段 受審者 67名 合格 58名

・第6回ビデオ審査 3/21

級位 受審者 100名 (1級 93名、2級 7名)
初段 受審者 42名 合格 33名
弐段 受審者 9名 合格 3名

・第296回地連定期審査 3/21

級位 受審者 10名 (1級 8名、2級 2名)
初段 受審者 13名 合格 13名
弐段 受審者 9名 合格 7名
参段 受審者 19名 合格 5名
四段 受審者 26名 合格 4名
五段 受審者 21名 合格 5名

(審査部 松村由喜子)

奈良県中学校弓道選手権大会

男子:竹田選手(香芝)、女子:北野選手(天理南)
が優勝

今年度最後の試合、奈良県中学校弓道選手権大会が3月20日(土)に橿原公苑弓道場で、奈良県弓道連盟主催で開催されました。個人戦は各人4射と、2中以上の者が予選通過。予選通過者は再度4射し、8射の的中数で順位を決定。同時に学校対抗戦を行い、各校上位6名の個人予選(各自4射)の合計的中数の合計で順位を決定しました。参加者は男子49人、女子75人でした。結果は次の通りです。

<個人戦>

男子

女子

優勝 竹田 匠汰(香芝中) 北野 陽菜(天理南中)

2位 稲岡 宏弥(橿原中) 木村 杏寿(大成中)

3位 佐々木 優力(香芝中) 長谷川 玲花(香芝中)

<学校対抗戦>

優勝 香芝中学校

2位 橿原中学校

3位 天理南中学校



個人戦入賞者

左から女子1位2位3位、男子1位2位3位



学校対抗戦の入賞チーム代表者

左から香芝中(2名)、橿原中 天理南中

第1回中央審査講習会開催

4月11日、ロート奈良弓道場において第1回中央審査講習会を実施しました。

講師に範士九段吉本清信先生、教士八段須田三郎先生に来ていただき、午前に錬士受審予定者22名、午後に六段以上受審予定者22名が参加し行われました。

午前は、一手行射の後、前射場で射技研修(一手1回、1本1回)、後射場で、全員が取り懸けの間合いでの持的射礼研修を行いました。

午後は、一手行射の後、六段受審者は射技研修を一手3回行い、教士以上受審者は一つの射礼研修と、並行して射技研修(一手1回、1本1回)を行いました。



講師の先生と真剣な面持ちの受講生たち

例年1日で行っている研修を、午前午後に分けて行いました。限られた時間を有効に使えるように計画して実施しました。一手行射では緊張が見られましたが、射技研修や射礼研修では、次第に良射が多くみられるようになりました。受講生の今年度の吉報を期待しております。

講師の先生方、お忙しい中、ご指導ありがとうございました。

<指導部からのお願い>

講習会は、事前参加申し込みを受けて、講師の先生と複数回の打合せの上、講習内容を決定しています。欠席されると、内容変更が必要になりますので、欠席される時は必ず連絡をくださいますようお願いいたします。

(shidou@narakyudo.jp 当日もメールチェックします)
(指導部 吉本清巳)

奈良県の支部、団体紹介

弓道部活動へのコロナ禍の影響と現状報告

奈良高専弓道部 顧問 谷口幸典

未知のウイルスの猛威により、奈良高専は2020年3月3日より登校禁止とし、卒業式～新年度入学式も中止して、4月を課題学習、5月の連休後から7月終わりまで、遠隔授業形式を継続しました。ほぼ5か月間、部活動が休止したことになります。その後、感染防止対策チェックリストに基づいて段階的に対面授業と部活動を再開しましたが、4年生部員の引退試合となる高専大会は中止となり、合宿など学外稽古もできない状況で、寂しい夏となってしまいました。それでも引退までの1か月間、新しい生活様式に基づいて稽古に励み、短い夏休みが終わるころには13名の新入部員も迎えて、ようやく例年通りの稽古内容を実施できるようになりました。しかし、当たり前のように行ってきた対外行事は一変してしまいました。高体連試合への帯同は、応援はもちろん、看的や記録など運営の補助業務を担うことを通じた見取り稽古を通じ、成長できる貴重な機会でしたが、コロナ禍においては選手以外の部員の帯同は最小限になりました。試合経験のみならず、経験豊富な4年生による指導の機会が失われたことは大きな痛手となり、現役部員の的中率は明らかに例年より低い状態となっています。特に1年生は、全員を1月末の新人大会に出場させることを目標に掲げ頑張っていたのですが、感染拡大第3波の影響で新年早々に再度の登校禁止期間が設けられ、十分な稽古ができなくなったことで大会参加を断念することになりました。2月も活動時間の短縮など稽古時間を確保することが難しく、3月現在になり、ようやくまとまった稽古時間を得て、上達に励んでいるところです。対外試合の計画も中止や延期を重ねることになりましたが、年度末に鈴鹿高専との交流試合をようやく実施できたことは、この1年間、学校行事がなかった両校部員達にとって、非常に有益なものとなりました。このように、改めて、他者との交流を通じた自己実現の場としての部活動行事の重要性を認識する1年間であった一方で、収束の兆しを見せるどころか、第4波の到来も危惧されるコロナ禍の現状、高専は今後も登校禁止とせざるを得ない可能性が十分にありま

す。直接的な対人競技ではない弓道においては、情報通信技術との親和性があり、遠隔形式での交流を実現することも可能と言えます。6月～7月に開催される高専大会地区予選会については、各校の弓道場をリアルタイムに通信接続して実施することが、一部地区で既に決定されています。フィジカルな交流の制限や中止をせざるを得ない場合でも、遠隔通信を通じて部員同士の交流や協調ができる機会を設け、どのような形であれ、活動を途切れないようにしていくことが重要であると考えています。

量る、測る、計る？



羽山の高さは何cmですか？

羽丈は何cmですか？

コロナ禍にありながらも対策を取りつつ競技や審査が行われています。新年度、気持ちを新たに弓と向き合いたいものです。さて、冒頭の質問ですが、競技規則に規定があるものなのです。羽山とは羽根の高さ、規定では5mm以上。羽丈（羽根の長さ）は近的競技では13～15cm、遠的競技では9～15cm。競技前に弓具審判が弓具点検を行います。羽丈はオーダーでもなければ、通常15cmでしょう。けれど、羽山は擦れて短くなるので注意が必要です。擦れて減りやすい弓摺羽の位置は、管の向きを替えることで均等に減っていくようにすることもできます。点検でもう一つ見られるのが、矢摺籐です。矢摺籐の長さは籐頭より6cm以上。また、作為的な目印がないかも見られます。ご自分で巻く方は注意が必要ですね。

審査や試合当日の控えて指摘されて慌てて直すより、普段から気をつけておきたいものです。

編 | 集 | 後 | 記

桜の美しく咲く3月の半ばから下旬にかけて、多くの人が審査を受審され、たくさんの合格者がありました。おめでとうございます。色々なドラマがあった事でしょう。そんな中、奈良県に須田先生が八段に昇段という明るいビッグニュースが飛び込んできました。世の中も弓道界も停滞してしまって身動きがとれない感じがしていましたが、強い力をいただきました。三密を避けることを再度皆で心がけ、注意深くあゆみを止めずに行きましょう。（編集委員 松澤和実）